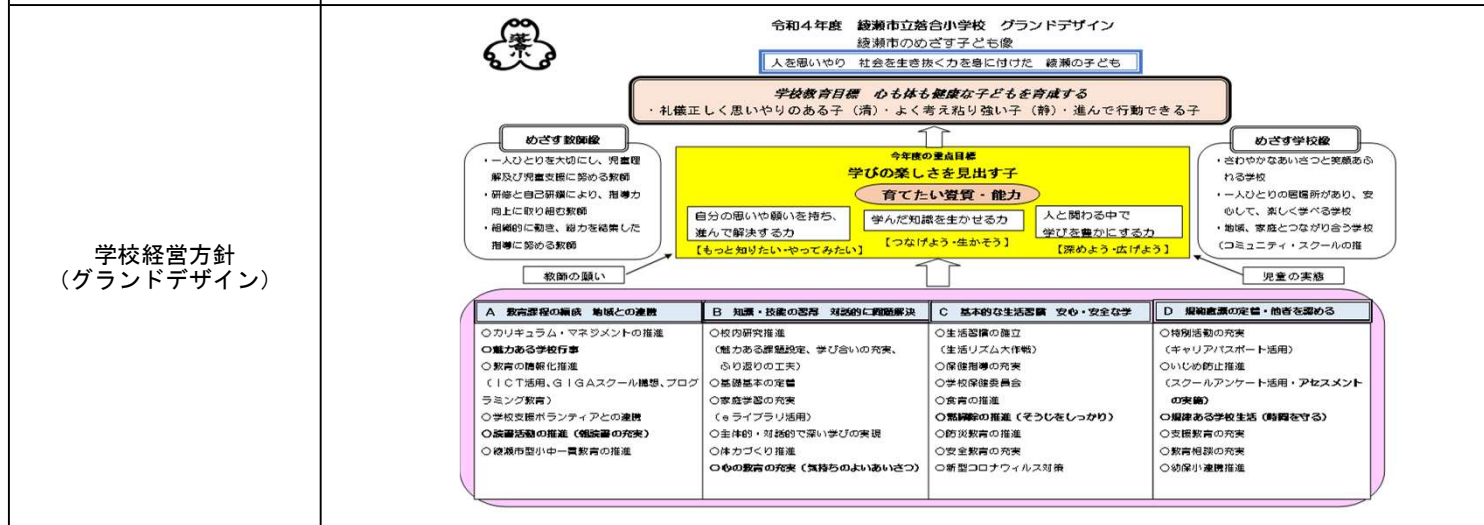


令和4年度 綾瀬市立 落合学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども
---------------	---------------------------------------

学校教育目標	心も体も健康な子どもを育成する 校風～清静動～ 【めざす子ども像】 ◇礼儀正しく思いやりのある子(清) ◇よく考え粘り強い子(静) ◇進んで行動できる子(動)
--------	--



今年度の重点目標	【重点目標】 学びの楽しさを見出す子 【育成したい資質・能力】 ○自分の思いや願いを持ち、進んで解決する力 ○学んだ知識を生かせる力 ○人と関わる中で、学びを豊かにする力
----------	--

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく考え、粘り強い子」を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。	85%以上の児童が進んで学習に取り組んでいると答えています。学校生活の大部分を占める授業において、このように感じられることが、児童の「学びに向かう力」の育成につながっていくと考えられます。児童の学ぶ姿を、共通認識のもと見取り、それを生かした指導の改善に向かっていきたいと思ひます。「振り返り」に継続して取り組み、児童が自分自身の学びの過程や変容を自覚できる場面を大切にしていきます。
2 教育課程	児童は、運動会や委員会、係活動に積極的に参加している。	90%を超える児童が、行事や学校での活動が楽しいと答えています。また、95%以上の保護者が、児童は行事や活動に積極的に取り組んでいると評価しています。今後も各行事・各活動を通して、児童一人一人が生き生きと活躍できるように心がけていきます。また、児童にとってより豊かな体験活動ができるように、地域の皆様にもご意見ご協力をいただき、取り組んでいきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「礼儀正しく思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。	80%以上の児童や保護者が、児童は「あいさつをし、きまりを守って生活している」と答えています。児童自身が、地域の方や保護者から大切にされている存在であることを実感し、そのつながりを意識できるような働きかけすることで、より進んで挨拶ができる子、周囲の人への感謝の気持ちや思いやりをもって行動できる子に育てたいと考えています。今後も、学校・家庭・地域との連携を深めながら、さわやかなあいさつができる子、思いやりのある子を育てていきます。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	90%の児童が、「学校が楽しい」と答えています。児童が安心して楽しく学校生活を送るために、学級や学年での活動に加え、異学年交流の場を設け、今後は縦割りグループ活動のさらなる充実を目指していきます。さらに、ペア学年での学習の機会をより充実させていきます。全校児童が、横と縦でつながるようになることで、お互いに名前や顔がわかる関係になり、仲良く支え合うことができるかと考えます。また、楽しいと感じていない児童にも目を向け、何に困っているのかを探り、よりきめ細やかな対応を心がけ、寄り添いながら支援をしていきます。今後も児童同士や、児童と教職員のふれ合いの機会を増やすとともに、学習、行事、活動をより魅力あるものにし、全ての児童にとって「楽しい」と思えるような学校を目指していきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	61%の保護者が、いじめ問題に対しての学校の取り組みを認めています。これは、子ども達の関係が深刻になる前に教職員や児童、または保護者が気付き、連携して対処しているからではないかと思われまひます。一方で、保護者の29%が「わからない」と回答しています。学校の取り組みとしては、見えにくい部分かもしれませんが、今後も学校だより等を通して、いじめ問題への取組や対応策について、積極的に発信したいと考えまひます。また、いじめの早期発見に努めるとともに、教育活動全体を通して、思いやりの心やいじめをしない・許さない規範意識を育てていきます。

6	保健管理	学校は、「進んで行動できる子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	86%以上の児童が「健康に気をつけている」と答えています。今後も、心と体の健康に留意し、保健指導を行うとともに、保健便りで家庭と連携を図ることに努めていきます。また、引き続き「生活リズム大作戦」を実施し、「早寝・早起き・朝ごはん」の意識づけを行うとともに、規則正しい生活習慣が送れるように指導していきます。さらに、学校生活の中で時間を守ることが意識できるよう、指導を継続していきます。
7	安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	今後も引き続き、通学指導ボランティアの方々や校外委員を中心としたPTAの方々や学校職員が連携し、安全な登下校ができるように努め、消防・防災計画の検証や危機管理体制の徹底に取り組んでいきます。さらに、児童の実態に応じた、より効果のある交通安全教室や避難訓練・不審者対応の訓練を実施し、児童の安全に関する意識を高めていきます。また、施設の点検整備を定期的に行うとともに、学期に1回の下校指導では、歩行の仕方や通学路の安全にも気を配り、児童が安心して生活できる、安全・安心な学校づくりに努めていきます。
8	支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫をしている。	来年度も学習支援者の協力を得ながら、全職員で情報を共有し、学校全体でどのように支援をしていくか検討をしていきます。また、教育相談コーディネーターを中心として、スクールカウンセラーや外部機関との連携を図ったり、市の相談員等に依頼をしてケース会議を開いたりしながら、支援を必要としている児童に対して、よりよい支援ができるように努めます。また、校内で研修会を開き、教職員が支援教育に関する正しい専門的な知識を持ち、理解を深められるようにしていきます。
9	組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	来年度も学校教育目標をもとに各グループが重点目標を定め、今年度の反省を生かして業務を改善し、学校運営に取り組んでいきます。全教職員が個々の特性を生かし、落合小学校の子どもたちのため、力を合わせていきます。グループ間の連携を図り、経験の浅い教職員の人材育成に努めながら、学校教育目標の具現化に向け、全職員が一丸となって取り組んでいきます。
10	教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	児童の資質・能力を育成するために「どのように学ばせようか」という子どもの目線で教材研究・授業改善に臨み、教職員一人一人の授業力を高めていきたいと考えています。そのために、今の温かい雰囲気、教職員同士のコミュニケーションを一層大切にし、それぞれの持ち味を生かしながら、お互いに高め合える教職員集団を目指します。
11	教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	86%の保護者が、学校が子どものよさを大切にされた指導をしていると答えています。来年度も、児童と向き合い、よく話を聞き、児童理解に努めていきます。一方で、子どものよさが大切にされていないと感じている保護者もいることを真摯に受け止め、さらに個に応じた指導ができるように努めていきます。また、行事実施後の振り返りや学校評価を生かして、次年度の教育課程計画の作成をしていきます。家庭との連携を密にとり、相談しながら児童の指導にあたるとともに、より一層、児童一人一人が大切にされる学校づくりに努めていきます。
12	情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	95%の保護者が学校からの情報を得ていると答えています。来年度も学校・保健室・学年の便りを通して情報発信に努めていきます。また、連絡帳や電話連絡、学校情報配信システムなどを通して、必要な情報は迅速に伝えるように心がけていきます。来年度も、安全に配慮しながら行事等を実施したいと考えています。今年度から始まった学校運営協議会では、これまで培われてきた地域の方々とのつながりを一層大切にしながら、児童のより豊かな体験活動に結び付くよう、地域との連携に努めていきます。学校評価や学校運営協議会でいただいた保護者・地域の皆様の声も、これからの学校運営に反映させていきます。
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観や運動会、学年発表などの行事が少しずつ戻りつつあり、保護者が子ども達の生き生きと活動する様子を目にする機会が得られたことは評価できる。 ・いじめ防止の取り組みについては、学校としては取り組みを行い、保護者へも発信しているが、学校だよりでは伝えきれないこともある。伝えるためのツールや機会に関しては、今後も考えていく。 ・学校行事に地域の力を借りながら、学校と地域が協働していけるとよい。 ・どのクラスも集中して授業に参加している様子が見られる。また、学校教育において、実体験を伴う活動は大切であり、今後も大切にしていきたい。 ・タブレットPCを活用した授業が見られるが、全児童が使いこなすには、まだ時間が必要だと感じる。今後もICTを授業で有効に活用できるよう、また子どもたちが必要なスキルを身に付けられるよう、指導を重ねていく。 ・読書活動推進の一助として、地域の力を借りて寄贈本や卒業文庫を募集する取り組みを行い、多くの本が集まった。学級文庫をはじめ、廊下や掲示板など、子ども達がいつでも本を手にとれる環境が良い。 ・木の剪定、花の手入れ、ペンキ塗りなど、校内外の環境整備がよい。手入れが行き届いた環境は子ども達の生活・学習によいだけでなく、不審者対策にもなり、評価できる。 			